

開催報告

支部事業 市民講座

● くすりと健康 2026 講演会（日本薬学会関東支部・市民講座）

日 時：2026年5月30日（土）13：30～16：30
会 場：TKP 渋谷長井記念ホール（東京都渋谷区渋谷 2-12-15）
+ オンライン（Zoom）
主 催：日本薬学会関東支部
後 援：東京都薬剤師会
企画委員長：日下部 吉男（名城大学薬学部）



2026年5月30日（土）、日本薬学会関東支部による市民講座「くすりと健康 2026」講演会が、TKP 渋谷長井記念ホールにおいて対面とオンライン配信によるハイブリッド形式で開催されました。

開会にあたり、日本薬学会関東支部長の高橋秀依先生よりご挨拶があり、市民講座開催の趣旨や、市民の皆様に薬学・医療への理解を深めていただくことの重要性についてお話しいただきました。



続いて、今年度は「認知症」と「薬の適正使用」をテーマに、2名の先生方を講師としてお迎えし、多くの市民の皆様にご参加いただきました。参加者は熱心に耳を傾け、活発な質疑応答も行われるなど、大変盛況のうちに終了いたしました。

演題：「認知症を知る、防ぐ、治す：認知症創薬研究の最前線」

講師： 富田 泰輔 先生（東京大学大学院薬学研究科機能病態学教室）

座長： 鈴木 正論 委員

富田泰輔先生からは、認知症の基礎知識から最新の創薬研究まで、幅広い内容についてわかりやすくご講演いただきました。

講演の前半では、「物忘れ」と「認知症」の違いや、「同じことを何度も尋ねる」「時間や場所が分からなくなる」「慣れた道で迷う」といった認知症の代表的な症状について紹介され、早期発見や早期受診の重要性についてご説明いただきました。また、高齢化の進展に伴い認知症患者数が増加している現状や、誰もが身近な問題として認知症を正しく理解することの大切さについてもお話しいただきました。



講演の後半では、アルツハイマー病を中心とした認知症の発症メカニズムについて、アミロイドβやタウタンパク質の異常が脳内でどのように蓄積し、神経細胞の障害へとつながるのかを、図を交えながら分かりやすく解説していただきました。さらに、近年大きく進歩している認知症創薬研究について、抗アミロイドβ抗体医薬をはじめとする最新の治療薬や、発症前診断・早期治療に向けた研究の現状などをご紹介いただき、認知症医療が大きく発展していることを学ぶ貴重な機会となりました。

認知症についての基本的な知識から最先端の研究までを体系的に学ぶことができる内容であり、参加者からは「認知症をより身近に感じることができた」「最新の研究動向を知ることができ、大変興味深かった」といった感想が寄せられました。



演題：「歳を重ねていくあなたに伝えたいくすりの話

～薬を正しく使うために～

講師： 谷古宇 美佳 先生（東京都健康長寿医療センター薬剤科）

座長： 高松 登 委員

講演では、高齢者における薬物療法の特徴と、薬を安全かつ効果的に使用するためのポイントについてご講演いただきました。

高齢になると身体機能の変化に伴い、薬の効き方や副作用の現れ方が若い頃とは異なること、多剤併用（ポリファーマシー）が転倒や認知機能低下などのリスクを高める可能性があることについて、具体的な事例を交えながら解説されました。また、処方された薬を自己判断で中止したり、飲み残した薬を自己調整したりすることの危険性についても説明され、医師・薬剤師との相談の重要性が紹介されました。

さらに、お薬手帳の活用やかかりつけ薬剤師・薬局の役割についても触れられ、薬を「正しく飲む」だけでなく、「自分自身の健康を守るために上手に付き合う」ことの大切さが伝えられました。高齢社会が進む中で、薬との向き合い方を改めて考える貴重な講演となりました。

会場では、認知症の予防や新しい治療薬、高齢者の服薬管理などについて多くの質問が寄せられ、参加者の関心の高さがうかがえました。アンケートでは、「薬との付き合い方を見直すきっかけになった」「大変分かりやすく、日常生活に役立つ内容であった」といった感想が多く寄せられました。



最後に、市民講座委員長の日下部吉男より、本講演会の総括として、講演いただいた先生方、ご参加いただいた皆様、ならびに開催にご協力いただいた関係者の皆様への謝辞を述べるとともに、本講演会で得られた知識を日々の健康づくりに役立てていただきたい旨をお伝えし、閉会となりました。

今後も日本薬学会関東支部では、市民の皆様の健康増進に役立つ情報を発信し、薬学をより身近に感じていただける活動を継続してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

日本薬学会 関東支部 市民講座企画委員長
名城大学薬学部 日下部 吉男



以上